

鹿田山周辺広域協定（群馬県みどり市）

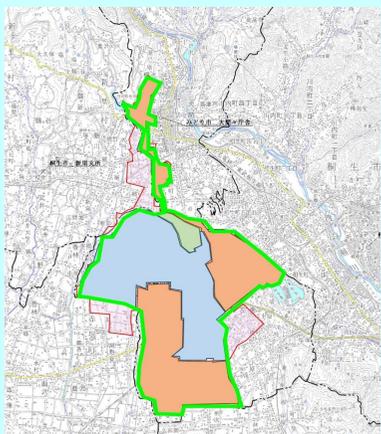
- みどり市は、群馬県東南部の渡良瀬川右岸に位置し、大間々扇状地に広がる畑地帯である。この地域は水の便が悪く干ばつの脅威にさらされていたが、昭和30年～40年代に畑地灌漑施設が整備されてから様相が一変し、現在は、特産品のトマトやなすのほか、ほうれんそう、にんじん、しいたけなどが作られ、首都圏等へ出荷されている。
- 平成18年度に、鹿田山環境保全ネットワークが現在活動している地域の農業者が、大間々用水土地改良区の協力の下、多面的機能支払交付金事業の前身の実験事業に取組を始めたのに合わせ、渡良瀬特別支援学校との連携活動も始まった。現在は、地域の中央に位置する鹿田山エリアにおいて、さつまいも、菜の花、綿の栽培等の農作業や、フットパス（散策路）の整備・管理などの作業を連携して実施している。
- 鹿田山エリア（フットパス）は、その美しい景観もあいまって、日々、多くの地域住民が散策等に利用し、地域の憩いの場となっており、多面的機能支払活動組織の構成員（作業への参加者）と特別支援学校の生徒のいずれにとっても、共通の心のよりどころ（＝やりがいを生み、活動を継続するためのシンボル）となっている。

【地区概要】

- ・認定農用地面積 322.8ha
（田 73.4ha、畑 249.4ha）
- ・資源量 水路119km、農道162.6km、
ため池5箇所
- ・主な構成員 水利組合、自治会、高校、
特別支援学校、幼保園、土地改良区など
- ・交付金
約19.2百万円（R4）
農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

連携前の状況や課題

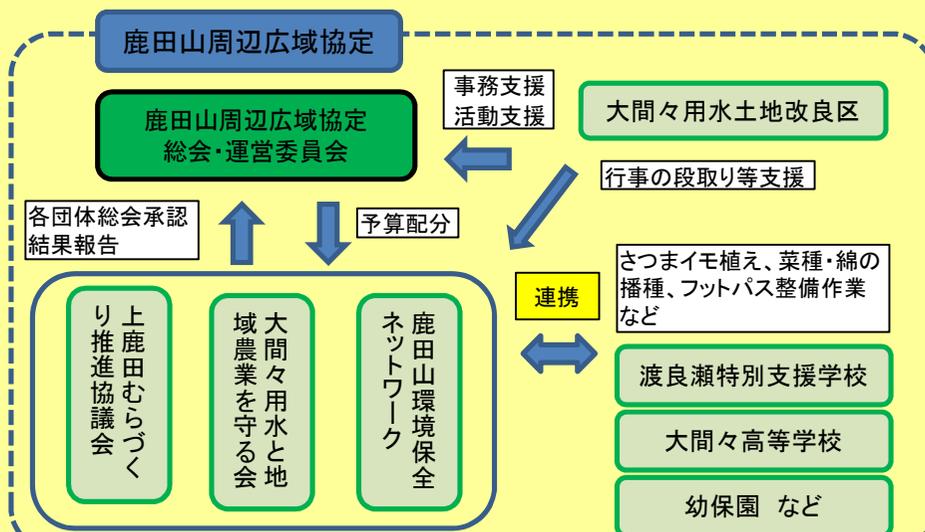
- 連携以前は、鹿田山エリアはごみ捨て場となっており、地主や行政も活用方法を模索していた。
- 特別支援学校は、鹿田山に隣接しているが、地域との交流はほとんどなく、学校側は生徒の校外学習の機会や自然とのふれあいの場を探していた。



3つの活動組織による広域協定の対象地域

組織体制図と連携

- 平成29年度に3つの活動組織が広域化し、鹿田山周辺広域協定が設立された。鹿田山エリアにおける特別支援学校等との連携活動は、主として広域協定の構成組織の一つである鹿田山環境保全ネットワークが、他2組織の協力も得つつ取り組んでおり、行事の段取り等については、広域協定の事務を受託している大間々用水土地改良区が全面的に協力して実施している。



取組のポイント

- さつまいも苗の植付け・収穫、フットパスの整備等のコアとなる取組には、特別支援学校、活動組織の構成員、幼保園児、ボランティア等が多数参加して大規模に実施。
- さらに、特別支援学校の生徒たちは、日常的に畑やフットパスの草刈り、ごみ拾いを実施。その過程で住民から感謝の声をいただくなど、地域に貢献している実感を得ることができる機会となっている。
- また、生徒の取組（頑張り）を見て、活動組織の構成員も士気ももらっており、鹿田山エリア（フットパス）は、活動に参加している者の共通の心のよりどころとなっている。

きっかけ(H18)
 当時、大間々用水土地改良区職員の親族が渡良瀬特別支援学校に在学していたことや、活動場所の近くに学校があったことから連携を開始

ほ場、フットパスの維持管理(通年)

- さつまいも等を栽培しているほ場 やフットパスの除草やごみ拾い等の維持管理作業は、年間を通して週数回程度、渡良瀬特別支援学校の生徒が実施。
- その一生懸命な姿は地域に元気を与え、またそれによって生徒はやりがいを得ることができ、良い循環が生まれている。



年間の主な活動内容

大規模な活動
 活動組織、土地改良区、特別支援学校、高校、保育園、地域住民など200~250人規模で行われている。

①さつまいも苗植え(6月)



②菜種の播種(9月)



③フットパスの環境整備(10月)



④さつまいもの収穫(11月)



連携による波及効果

活動組織のメリット

- 連携して活動することにより、生徒が一生懸命活動している姿を見る機会が増え、それにより構成員の士気向上につながっている。

特別支援学校のメリット

- 生徒は日々の管理作業等の中で地域住民から感謝の言葉をいただくこと等により、地域に貢献している実感を得ることができている。
 学校側としても貴重な教育カリキュラムの一環となっている。

土地改良区のメリット

- 大間々用水土地改良区が主導して連携していることで、土地改良事業への市民の理解も得やすくなり、受益地内の施設管理も効率的に行われるようになった。

地域住民のメリット

- フットパスが整備され、良好に維持管理されていることにより、美しい景観を享受しながら散策等を楽しむことができるようになった。

今後の展望

- 今後も連携活動を継続して実施し、地域の憩いの場を維持していく中で、行政と連携した地域環境保全活動への取組や、若者などを取り込むことにより、地域づくりや地域振興を展開していきたい。
- この連携活動を活かし、特別支援学校を卒業した生徒の受け皿となり得る社会福祉法人を設立できないかと模索している。